

令和4年1月5日

新種のヒョウタンナガカメムシをマレー半島で発見

当館 伴 光哲研究員は、ヒョウタンナガカメムシ科の *Kanigara* 属について分類学的な検討を行い、マレーシアから新種 *Kanigara nebulosa* を、これまで本属の記録がなかったタイから *K. punctata* を、それぞれ報告しました。

本研究の成果は、2022年1月5日にシンガポール国立大学発行の動物学の雑誌「Raffles Bulletin of Zoology」にて公開されました。

研究の概要

東南アジアを中心にこれまで10種が知られる *Kanigara* 属というヒョウタンナガカメムシの一群について、主に外部形態や交尾器の形態に基づき、分類学的な検討を行いました。その結果、マレー半島から新種を発見し、*K. nebulosa* と命名するとともに、これまで本属が知られていなかったタイから *K. punctata* を発見し、本属のタイ初記録として報告しました。

発表者名

伴 光哲

本文の解説

本研究で扱った *Kanigara* 属は、体長4-8 mm程度の、脚に長いトゲを持つことが特徴であるヒョウタンナガカメムシの一群です。東南アジアからこれまで10種が記録されていましたが、さらなる未記載種の存在が示唆されるなど、分類学的な検討が必要とされてきました。

本論文の著者である伴がこの属について調査を行ったところ、マレー半島から体長、胸部の斑紋、雄交尾器の形態が既知のいずれの種とも異なる未記載種（新種）が見出されました。このため、本種の特徴の一つである胸部の後角の黄色紋が薄いことにちなみ、*Kanigara nebulosa* と命名し、新種として記載しました。種小名の「*nebulosa*」は、ラテン語で「不明瞭な」という意味です。また、これまで *Kanigara* 属の記録が全くなかったタイ産の *K. punctata* の標本を確認し、同国から初記録として報告しました。



↑写真1 新種として記載された *K. nebulosa* Ban, 2022



↑写真2 タイから初記録された *K. punctata* Scudder, 1969

この属が属するヒョウタンナガカメムシ科には、東南アジアから日本にかけて分布する種が数多く知られています。このため、日本のファウナを理解するためには、東南アジアの分類群についても情報を集め・整備することが必要不可欠です。一方で同地から採集されるヒョウタンナガカメムシには未だ種名のついていない種も多く、多様性解明のための継続した調査が望まれます。

発表雑誌

雑誌名：「Raffles Bulletin of Zoology」

論文タイトル：

「The genus *Kanigara* Distant (Heteroptera: Lygaeoidea: Rhyparochromidae) from Malay Peninsula and Thailand, with description of a new species」

著者：Teruaki Ban

DOI: 10.26107/RBZ-2022-0002

関連する事業・研究課題

普遍研究課題

研究課題名「ナガカメムシ上科の分類学的研究」(代表者：伴 光哲)

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C

研究課題名「学校に収蔵された標本類を通じた博学連携」(代表者：斎木 健一)」

お問い合わせ先

千葉県立中央博物館 研究員 伴 光哲

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

TEL：043-265-3111

E-mail：t_ban@chiba-muse.or.jp